

ソフトウェアマニュアル
オペレーション

HIDIC
S10 シリーズ

一括セーブ/ロード For Windows[®]

2α
S10mini
シリーズ

対象機種

HIDIC-S10/2	NESP-S25E
HIDIC-S10/2 E	NESP-2 E
HIDIC-S10/2 H	NESP-2 H
HIDIC-S10/2 Hf	NESP-2 Hf
S10mini モデルS	
S10mini モデルH	
S10mini モデルF	
S10mini モデルD	

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。
なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問合わせください。

1997年 8月 (第1版) SAJ - 3 - 127 (A) (廃版)
1997年12月 (第2版) SAJ - 3 - 127 (B) (廃版)
2000年 1月 (第3版) SAJ - 3 - 127 (C) (廃版)
2000年 9月 (第4版) SAJ - 3 - 127 (D) (廃版)
2001年 1月 (第5版) SAJ - 3 - 127 (E) (廃版)
2003年 5月 (第6版) SAJ - 3 - 127 (F)

このマニュアルの一部、または全部を無断で転写したり複写することは、固くお断りいたします。
このマニュアルの内容を、改良のため予告なしに変更することがあります。



安全上のご注意

システムの構築やプログラムの作成などは、このマニュアルの記載内容をよく読み、書かれている指示や注意を十分理解してから行ってください。誤操作により、システムが故障することがあります。

このマニュアルは、必要なときすぐに参照できるよう、手近なところに保管してください。このマニュアルの記載内容について疑問点または不明点がございましたら、最寄りの当社営業またはSEまでお知らせください。

お客様の誤操作に起因する事故発生や損害については、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

当社提供ソフトウェアを改変して使用した場合に発生した事故や損害については、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

当社提供以外のソフトウェアを使用した場合の信頼性については、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

ファイルのバックアップ作業を日常業務に組み入れてください。ファイル装置の障害、ファイルアクセス中の停電、誤操作、その他何らかの原因によりファイルの内容を消失することがあります。このような事態に備え、計画的にファイルのバックアップを取っておいてください。

当社製品が故障や誤動作したりプログラムに欠陥があった場合でも、使用されるシステムの安全が十分に確保されるよう、保護・安全回路は外部に設け、人身事故や重大な災害に対する安全対策が十分確保できるようなシステム設計としてください。

非常停止回路、インタロック回路などはPLCの外部で構成してください。PLCの故障により、機械の破損や事故の恐れがあります。

運転中のプログラム変更、強制出力、RUN、STOPなどは十分安全を確認してから行ってください。誤操作により、機械の破損や事故の恐れがあります。

はじめに

一括セーブ/ロードシステムをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

このシステムは、パーソナルコンピュータ上で動作し、PCs上のすべてのシステムプログラムと、ユーザの指定した領域のメモリ内容を一括してユーザが指定したフロッピーディスクやハードディスクへセーブすることができます。また、一括セーブにより作成されたファイルをPCsへ一括してロードすることもできます。

このマニュアルは、一括セーブ/ロードシステムにおける操作方法について記述してあります。

このマニュアルは、下記バージョンのシステムに対応しています。

システム名称およびバージョン
一括セーブ/ロードシステム For Windows® 08-01

バージョン05-00以前のシステムは、Microsoft® Windows® 98 operating systemに対応していません。Microsoft® Windows® 95 operating systemのみの対応となります。

NESP (Nissan Electronic Sequence Processor) シリーズは、下記の対応を参照のうえご使用してください。

【HIDIC-S10 シリーズ】		【NESPシリーズ】
HIDIC-S10/2	NESP-S25E
HIDIC-S10/2 E	NESP-2 E
HIDIC-S10/2 H	NESP-2 H
HIDIC-S10/2 Hf	NESP-2 Hf

< 商標について >

・ Microsoft® Windows® operating system, Microsoft® Windows® 95 operating system, Microsoft® Windows® 98 operating system, Microsoft® Windows® 2000 operating system, Microsoft® Windows® XP operating systemは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

・ Ethernetは米国Xerox Corp.の登録商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

Windows® 2000, Windows® XP対応システムについて

Microsoft® Windows® 2000 operating system (以降、Windows® 2000と略します。), Microsoft® Windows® XP operating system (以降、Windows® XPと略します。)対応のシステムは、下記一覧のとおりです。

下記一覧のバージョンより古いバージョンのシステムは、Windows® 2000, Windows® XPに対応していませんので、Microsoft® Windows® 95 operating system (以降、Windows® 95と略します。), Microsoft® Windows® 98 operating system (以降、Windows® 98と略します。)のみの対応となります。(下記一覧のシステム名は、以降、各システムと略します。)

< Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧 >

No.	システム名	型式	バージョン	Windows® 2000	Windows® XP
1	S10Toolsシステム	S-7890-01	07-05		
2	ラダー図システム	S-7890-02	07-05		
3	HI-FLOWシステム	S-7890-03	07-02		
4	CPMSロードシステム	S-7890-04	07-04		
5	CPMSEロードシステム	S-7890-05	07-04		
6	CPMSデバッグシステム	S-7890-06	07-02		
7	CPMSEデバッグシステム	S-7890-07	07-02		
8	GP-IBロードシステム	S-7890-08	07-01		
9	一括セーブ/ロードシステム	S-7890-09	08-01		
10	RPDP/S10 SYSTEM	S-7891-10	03-03	(*2)	× (*1)
11	NX/ACP-S10	S-7891-11	01-02	(*2)	× (*1)
12	NX/Ladder	S-7891-12	02-01	(*2)	× (*1)
13	NX/Tools-S10システム	S-7890-13	07-02		
14	NX/HOST-S10	S-7890-14	07-01		
15	4 ラダー図システム	S-7890-17	07-05		
16	4 Hラダー図システム	S-7890-18	07-05		
17	ラダー図コメントコンバータシステム	S-7890-19	06-01		
18	H7338サポートシステム	S-7890-20	07-01		
19	高速リモートI/Oシステム	S-7890-21	07-01		
20	CPU間リンクシステム	S-7890-22	07-01		
21	4チャンネルアナログパルスカウンタシステム	S-7890-23	07-01		
22	外部機器リンクシステム	S-7890-24	07-02		
23	S10ET LINKシステム	S-7890-25	07-02		
24	J.NETシステム	S-7890-27	07-02		
25	OD.RING/SD.LINKシステム	S-7890-28	07-03		
26	ET.NETシステム	S-7890-29	07-01		
27	FL.NETシステム	S-7890-30	07-03		
28	D.NETシステム	S-7890-31	07-04		
29	BSCシステム	S-7890-32	07-01		
30	HDLCシステム	S-7890-33	07-01		
31	モニタ専用ラダー図システム	S-7890-34	07-04		
32	モニタ専用HI-FLOWシステム	S-7890-35	07-01		
33	IR.LINKシステム	S-7890-36	07-02		
34	クロスCコンパイラ (マター・グラフィックス・ジャパン株式会社製)	MCP68K	5.3	(*2)	× (*1)

: 対応、× : 非対応

(*1) クロスCコンパイラ (No.34) は、Windows® XPに非対応のため、Windows® 2000で使用してください。

(*2) クロスCコンパイラ (No.34) は、Windows® 2000対応版 (バージョン5.3以降) が前提です。

<用語の定義>

- Nコイル : パソコン上に表示されたシートにシンボルを貼り付け、PCs上で実行できる形態に変換したラダープログラムです。
- プロセス : パソコン上に表示されたシートにシンボルを貼り付け、PCs上で実行できる形態に変換したHI-FLOWプログラムです。
- コンパイル : ラダー図やHI-FLOWのアプリケーションプログラムをPCsで実行できる形態（Nコイル、プロセスなど）に変換します。
- ビルド : 修正したアプリケーションプログラムのみコンパイルします。
- リビルド : 存在するすべてのアプリケーションプログラムをコンパイルします。
- シート : ラダー図やHI-FLOWのアプリケーションプログラムなどを作成するための用紙で、パソコン上で管理します。
- PCs : Programmable Controllersの略です。
S10 およびS10miniシリーズ等のPLCの総称です。
- PLC : Programmable Logic Controllerの略です。
プログラム内蔵方式でシーケンス制御をする工業用電子装置です。
S10 およびS10miniシリーズ等もPLCに該当します。

<記憶容量の計算値についての注意>

2ⁿ計算値の場合（メモリ容量・所要量、ファイル容量・所要量など）

1KB（キロバイト）= 1,024バイトの計算値です。

1MB（メガバイト）= 1,048,576バイトの計算値です。

1GB（ギガバイト）= 1,073,741,824バイトの計算値です。

10ⁿ計算値の場合（ディスク容量など）

1KB（キロバイト）= 1,000バイトの計算値です。

1MB（メガバイト）= 1,000²バイトの計算値です。

1GB（ギガバイト）= 1,000³バイトの計算値です。

目 次

1	ご使用にあたり	1
1.1	システムの概要	2
1.2	必要なハードウェアとソフトウェア	2
1.3	一括セーブエリア	4
1.4	一括セーブ/ロード時の注意事項	5
1.5	既存の一括セーブ/ロードシステムとの互換性について	7
2	システムインストール	9
2.1	インストール	10
2.2	アンインストール	11
2.3	システム立ち上げ	12
2.4	システム終了	13
3	コマンド	15
3.1	コマンド体系	16
3.2	一括セーブ	16
3.3	一括ロード	23
3.4	ユーザアプリケーションロード	30
3.5	ユーザアプリケーション比較	31
3.6	一括セーブファイル表示	32
3.7	接続PCs変更	36
付 録	39
付録A	一括セーブファイル一覧	40
付録B	一括セーブエリア	42

目 次

図 2 - 1	[一括セーブ/ロード]画面	13
図 3 - 1	[一括セーブ]画面	16
図 3 - 2	[参照]画面	18
図 3 - 3	[一括セーブ/ロード]ダイアログボックス(全タスクアポート確認)	19
図 3 - 4	[一括セーブ/ロード]ダイアログボックス(デバッグシステム未インストール時)	19
図 3 - 5	[一括セーブ/ロード]ダイアログボックス(OS動作停止確認)	20
図 3 - 6	[一括セーブ]画面(一括セーブ中)	20
図 3 - 7	[オプション]画面(セーブエリアサイズ切り替え)	21
図 3 - 8	[一括ロード]画面(ファイル選択)	23
図 3 - 9	[PCs No. Check]画面(PCs番号不一致エラーメッセージ)	24
図 3 - 10	[PCsリセット]ダイアログボックス	24
図 3 - 11	[一括ロード]画面(メモリクリア確認)	25
図 3 - 12	[一括ロード]画面(メモリクリア中)	25
図 3 - 13	[一括セーブ/ロード]画面(キープコイルとカウンタ計測値の情報復元確認)	26
図 3 - 14	[一括ロード]画面(一括ロード中)	27
図 3 - 15	[拡張メモリアドレス不一致]画面	28
図 3 - 16	[一括セーブ/ロード]画面(Fリンク情報ローディング許可確認)	28
図 3 - 17	[一括セーブ/ロード]画面(HDLC情報ローディング許可確認)	28
図 3 - 18	[一括セーブ/ロード]画面(H-7338情報ローディング許可確認)	29
図 3 - 19	[一括セーブ/ロード]画面(BSCモジュール情報ローディング許可確認)	29
図 3 - 20	[一括セーブ/ロード]画面(外部機器リンクモジュール情報ローディング許可確認)	29
図 3 - 21	[ユーザアプリケーションロード]画面	30
図 3 - 22	[ユーザアプリケーション比較]画面	31
図 3 - 23	[一括セーブファイル選択]画面	32
図 3 - 24	[一括セーブファイル表示]画面	33
図 3 - 25	[通信種類]画面(接続PCs変更)	36
図 3 - 26	[通信種類]画面(RS-232Cポート選択)	36
図 3 - 27	[通信種類]画面(イーサネット接続)	37
図 3 - 28	[通信種類]画面(GP-IB接続)	37

表 目 次

表 1 - 1	拡張メモリの容量と一括セーブ時に指定する拡張エリアアドレスの関係	4
表 1 - 2	実装している拡張メモリの枚数と一括セーブ時に指定する拡張エリアアドレスの関係 (2 の拡張メモリの枚数はLWM414およびLWM424 (1MB) の場合)	4
表 1 - 3	一括ロード	7
表 1 - 4	一括セーブファイル表示	7
表 A - 1	一括セーブファイル一覧	40
表 B - 1	「プログラム及びパラメータ」指定時に一括セーブされるOSエリア	42
表 B - 2	「プログラム及びパラメータ」指定時に一括セーブされるオプションモジュールエリア	43
表 B - 3	「RAM全体」指定時に一括セーブされるオプションモジュールエリア	43

1 ご使用にあたり

1 ご使用にあたり

このマニュアルは、Windows®パソコンプログラミングのユーザを対象としています。

1.1 システムの概要

一括セーブ/ロード For Windows® (以降、一括セーブ/ロードと略します。)は、一般的なWindows®アプリケーションと等価なオペレーションによりHIDIC-S10 およびS10miniシリーズ用プログラムの一括セーブ/ロードを行います。

1.2 必要なハードウェアとソフトウェア

各システムを使用するためには、以下のハードウェアおよびソフトウェアが必要です。

<パーソナルコンピュータ (以降、パソコンと略します。) >

項目	OS	Windows® 95 (*1)	Windows® 2000 (*1)	Windows® XP (*1)
		Windows® 98 (*1)		(*2)
CPU		Pentium 133MHz以上	Pentium 300MHz以上	
メモリ (RAM)		32MB以上	64MB以上	128MB以上
空きハードディスク容量 (*3)		20MB以上 / システム (ただし、OSインストール、オプションモジュールソフトウェアは、10MB以上 / システム)		
FDドライブ		1台以上 (FDにてソフトウェアをインストールする場合に必要)		
CD-ROMドライブ		1台以上 (CD-ROMにてソフトウェアをインストールする場合に必要)		
イーサネット (10BASE-T)		1ポート以上 (パソコンとET.NETモジュールを接続する場合に必要)		
シリアル (D-sub9ピン)		1ポート以上 (PCsとパソコンをRS-232C接続する場合、またはET.NETモジュールにIPアドレスを設定する場合に必要)		
PCカード (PC Card Standard (JEITA V4.2) 準拠TYPE またはTYPE)		1スロット以上 (パソコンとパラレルインタフェースモジュール (LWZ400) を接続する場合、下記GP-IBカードと共に必要) GP-IBカード : PCMCIA-GPIB (型番 : 777438-02) (日本ナショナルインスツルメンツ株式会社製)		
ディスプレイ		800 × 600ピクセル以上の解像度		
Microsoft® Internet Explorer		バージョン4.01以降		

(*1) OSのサービスパックはソフトウェア添付資料を参照してください。

(*2) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 34を除きます。

(*3) 各システムをインストールするために必要な容量です。さらにユーザプログラム保存用の空き容量が必要です。

<パソコン以外のハードウェア>

- ・HIDIC-S10 シリーズCPU (2、2 E、2 H、2 Hf) またはS10miniシリーズCPU
- ・HIDIC-S10 シリーズ電源またはS10miniシリーズ電源
- ・HIDIC-S10 シリーズバックボードまたはS10miniシリーズバックボード
- ・パソコンとPCs間の接続ケーブル
- ・必要に応じたりモートI/Oステーション、電源、バックボード、カードおよび配線ケーブル

留意事項
この製品を使用するユーザは、Windows®環境およびユーザインタフェースについての知識が必要です。このシステムは、Windows®標準に従っています。このマニュアルは、基本となるWindows®の使用法を習得しているユーザを対象にして記述されています。

パソコン設定上の注意
サスペンド機能を持ったパソコンを使用する場合は、サスペンド機能をOFFにしてください。このシステムを実行中にサスペンド機能が動作すると、正常に動作しないことがあります。

1 ご使用にあたり

1.3 一括セーブエリア

一括セーブコマンドにてセーブされるエリアを以下に示します。

(1) システムエリアおよびラダープログラムエリア

以下のエリアは、一括セーブ時に自動でセーブされます。

- ・OS (ワークエリア含む)
- ・ラダープログラムおよびDWレジスタ
- ・FW, BDレジスタ
- ・タイマ設定値およびキーリレー状態値

詳細なアドレスについては、「付録B 一括セーブエリア」を参照してください。

(2) 実装オプションモジュールエリア

実装されているオプションモジュールのエリアがセーブされます。セーブされるエリアは、各オプションモジュールにより異なります。詳細なアドレスについては、「付録B 一括セーブエリア」を参照してください。オプションモジュールの中には、拡張メモリ内に、サブOS等を含むものがあります。一括セーブ時には、実装している全拡張メモリエリアをすべてセーブすることをお勧めします。実装した拡張メモリと拡張メモリアドレスについては、表1-1、表1-2を参照してください。

表1-1 拡張メモリの容量と一括セーブ時に指定する拡張エリアアドレスの関係

拡張メモリ容量	一括セーブ時に指定する拡張エリアアドレス
1MB	/100000 ~ /1FFFFE
2MB	/100000 ~ /2FFFFE
3MB	/100000 ~ /3FFFFE
4MB	/100000 ~ /4FFFFE

表1-2 実装している拡張メモリの枚数と一括セーブ時に指定する拡張エリアアドレスの関係
(2の拡張メモリの枚数はLWM414およびLWM424(1MB)の場合)

実装拡張メモリ枚数		1枚	2枚	3枚	4枚
機種	2	/100000 ~ /1FFFFE	/100000 ~ /2FFFFE	実装禁止	実装禁止
	2 E	/100000 ~ /1FFFFE	/100000 ~ /2FFFFE	/100000 ~ /3FFFFE	/100000 ~ /4FFFFE
	2 H	/100000 ~ /2FFFFE	/100000 ~ /3FFFFE	/100000 ~ /4FFFFE	実装禁止
	2 Hf	/100000 ~ /3FFFFE	/100000 ~ /4FFFFE	実装禁止	実装禁止
S10mini	モデルS	/100000 ~ /1FFFFE	/100000 ~ /2FFFFE	/100000 ~ /3FFFFE	/100000 ~ /4FFFFE
	モデルH	/100000 ~ /2FFFFE	/100000 ~ /3FFFFE	/100000 ~ /4FFFFE	実装禁止
	モデルF	/100000 ~ /2FFFFE	/100000 ~ /3FFFFE	/100000 ~ /4FFFFE	実装禁止
	モデルD	/100000 ~ /3FFFFE	/100000 ~ /4FFFFE	実装禁止	実装禁止

1. 4 一括セーブ/ロード時の注意事項

一括セーブするときにオプションモジュールを実装している場合は、下記(1)～(7)の注意が必要となります。各実装モジュールに応じてセーブエリアを指定することは、セーブ漏れを発生させる可能性がありますので、拡張メモリを実装している場合は、できるだけ拡張メモリの全エリア(例えば、拡張メモリ1MB実装している場合は、/100000～/1FFFFEを拡張エリアアドレスに指定する)を含めて一括セーブするようにしてください。

(1) 外部機器リンク、RS-232Cリンクモジュール

外部機器リンクモジュール(型式:LWE046)およびRS-232Cリンクモジュール(LWE450, LQE060)をタスクシステムで使用していて一括セーブする場合、ハンドラプログラムおよび受信タスク登録テーブルは自動でセーブされませんので、以下のアドレスを含むように拡張エリアアドレスを指定してください。

名称	アドレス
受信タスク登録テーブル	/107000～/107FFE

2 シリーズのRS-232Cリンクモジュール(LWE450)を上位リンク(H-7338)として使用している場合、サブOSは自動でセーブされませんので、以下のアドレスを含むように拡張エリアアドレスを指定してください。ただし、S10miniシリーズの場合はセーブ不要です。

名称	アドレス
上位リンクサブOS	/170000～/170FFE

(2) ETリンクモジュール

ETリンクモジュール(型式:LWE400)のハンドラプログラムおよびHOSTSテーブルは自動でセーブされませんので、以下のアドレスを含むように拡張エリアアドレスを指定してください。

名称	アドレス
ハンドラプログラム およびHOSTSテーブル	/160000～/16FFFFE

(3) CPU間リンクモジュール(CV-NETとして使用している場合)

CPU間リンクモジュール(型式:LWE020)をCV-NETとして使用している場合、サブOSは自動でセーブされませんので、以下のアドレスを含むように拡張エリアアドレスを指定してください。

名称	アドレス
サブOS	/104000～/1047FE /140000～/15FFFFE

1 ご使用にあたり

(4) BSCモジュール

BSCモジュール (LWE430, LWE530) のサブOSは自動でセーブされませんので、以下のアドレスを含むように拡張エリアアドレスを指定してください。

名称	アドレス
サブOS	/105000 ~ /105FFE

(5) HDLCモジュール

HDLCモジュール (LWE240) のハンドラプログラムは自動でセーブされませんので、以下のアドレスを含むように拡張エリアアドレスを指定してください。

名称	アドレス
ハンドラプログラム	/110000 ~ /111FFE

(6) 異機種間での一括セーブ/ロード不可

S10miniで一括セーブしたバックアップファイルをS10/2 シリーズへ一括ロード (またはその逆) しないでください。このような異機種への一括ロードを行った場合には誤動作の原因になります。

(7) モジュール設定スイッチの重複

同種のオプションモジュールでモジュール設定スイッチが重複している場合、一括セーブ/ロードの動作は保障されません。一括セーブ/ロード時は、モジュール設定スイッチが重複していないかどうか確認してください。

なお、下記のモジュールについては特に注意が必要です。

FリンクモジュールとHDLCモジュールが混在している場合

- ・Fリンクモジュールを1枚 (Main) 実装している場合、HDLCモジュールのモジュール設定スイッチは、1, 2, 3のいずれかを使用してください。
- ・Fリンクモジュールを2枚 (MainおよびSub) 実装している場合、HDLCモジュールのモジュール設定スイッチは、2, 3のいずれかを使用してください。

外部機器リンクモジュール、RS-232Cモジュール、BSCモジュールが混在している場合

- ・外部機器リンクモジュール、RS-232Cモジュール、BSCモジュール間で、モジュール設定スイッチは重複しないようにしてください。

その他

- ・Fリンクモジュールと外部機器リンクモジュール、RS-232Cモジュール、BSCモジュールのいずれかが実装されている場合、外部機器リンクモジュール、RS-232Cモジュール、BSCモジュールのモジュール設定スイッチの3は使用しないでください。

1. 5 既存の一括セーブ/ロードシステムとの互換性について

バージョン・レビジョンが08-00の一括セーブ/ロードシステムでは、大きく分けて以下の機能拡張を行っています。

- 一括セーブ/ロード対象モジュール拡張
- 一括セーブファイルの表示

バージョン・レビジョンが07-00以前の一括セーブ/ロードシステムと08-00の一括セーブ/ロードシステムの関係を表1 - 3および表1 - 4に示します。

表1 - 3 一括ロード

一括ロード 一括セーブ	バージョン・レビジョン	
	07-00以前でロード	08-00以降でロード
07-00以前でセーブ		
08-00以降でセーブ		

：一括ロード可能

：制限付き一括ロード可能

08-00（バージョン・レビジョン）でサポートしたモジュールについては、一括ロードされません。

既存（バージョン・レビジョンが08-00より前のもの）の一括セーブ/ロードシステムにて、一括セーブしたファイルをバージョン・レビジョンが08-00以降の一括セーブ/ロードシステムで、一括ロードできます。また、バージョン・レビジョンが08-00の一括セーブ/ロードシステムで一括セーブした情報を既存の一括セーブ/ロードシステムで制限付きで一括ロードすることもできます。

表1 - 4 一括セーブファイル表示

表示 一括セーブ	バージョン・レビジョン	
	07-00以前で表示	08-00以降で表示
07-00以前でセーブ	×	
08-00以降でセーブ	×	

：一括セーブファイル表示可能

×：一括セーブファイル表示不可能

既存（バージョン・レビジョンが08-00より前のもの）の一括セーブ/ロードシステムにて、一括セーブしたファイルをバージョン・レビジョンが08-00以降の一括セーブ/ロードシステムの一括セーブファイル表示機能を用いて表示することができます。

2 システムインストール

2 システムインストール

2. 1 インストール (*)

まず、お手元のCDが正しいものか確認してください。

各システムをインストールするには、システムのCDのDISK1フォルダに格納されているSetup.exeをダブルクリックします。インストール後、インストールしたプログラムの画面は表示されません。

なお、各システムをインストールするためには、Microsoft® Internet Explorer 4.01以降をインストールしておいてください。もし、インストールされていない場合は、インストール後に各システムをインストールしてください。

注 意

各システムを動作させるためには、Microsoft® Internet Explorer 4.01以降をインストールしておいてください。インストールされていない場合、各システムが正常に動作しません。各システムをインストールする前に、すべてのWindows®プログラムを必ず終了してください。ウイルス監視ソフトウェアなどメモリに常駐しているプログラムも必ず終了してください。終了せずにインストールすると、エラーが発生する場合があります。その場合は、「2. 2 アンインストール」を参照して、一旦システムをアンインストールし、すべてのWindows®プログラムを終了してから、再度各システムをインストールしてください。Windows® 2000を使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「Administrator」または「Administratorsグループに属するユーザ」としてください。Windows® XPを使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「コンピュータの管理者」としてください。「制限付きアカウント」では各システムが正常に動作しません。

(*) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 14, 34を除きます。

2.2 アンインストール(*)

バージョンアップ時などのアンインストールは、以下の手順で行います。

(1) Windows® 95, Windows® 98からのアンインストール

[スタート]メニューの[設定] - [コントロールパネル]を開きます。[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックし、[セットアップと削除]タブで「各システム」を選択し、 ボタンをクリックします。[ファイル削除の確認]画面が表示されますので、 ボタンをクリックします。

(2) Windows® 2000からのアンインストール

[スタート]メニューの[設定] - [コントロールパネル]を開きます。[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリック(または[スタート]メニューの[設定] - [コントロールパネル] - [アプリケーションの追加と削除]をクリックし、[プログラムの変更と削除]タブで「各システム」を選択し、 ボタンをクリックします。[ファイル削除の確認]画面が表示されますので、 ボタンをクリックします。

(3) Windows® XPからのアンインストール

[スタート]メニューの([設定] -) [コントロールパネル]を開きます。[プログラムの追加と削除]をダブルクリック(または[スタート]メニューの([設定] -) [コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除]をクリック)し、[プログラムの変更と削除]タブで「各システム」を選択し、 ボタンをクリックします。[ファイル削除の確認]画面が表示されますので、 ボタンをクリックします。

デスクトップ等に、各システム実行ファイルのショートカットを作成した場合は、そのショートカットを削除してください。

注 意

Windows®でアンインストール中に[共有ファイルを削除しますか?]画面が表示された場合は、 ボタンをクリックして共有ファイルを削除しないでください。

Windows® 2000を使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「Administrator」または「Administratorsグループに属するユーザ」としてください。

Windows® XPを使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「コンピュータの管理者」としてください。

Windows® 2000を使用してアンインストール時、[アプリケーションの追加と削除]画面がロック(操作不能)状態となった場合は、Windows®の[スタート]メニューの[シャットダウン]から一旦ログオフし、再度[Windowsへログオン]画面にてログオンしてください。

(*) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 14, 34を除きます。

2 システムインストール

2.3 システム立ち上げ(*)

(1) 各システムでインストールされるシステムは、Windows®の[スタート]メニューに自動的に登録されます。この[スタート]メニューから、[(すべての)プログラム] - [Hitachi S10] - 「各システム」を選択して起動してください。

各システムをインストール時にログオンしたユーザ名と、各システムを起動するユーザ名が異なる場合、各システムが[スタート]メニューに表示されません。その場合は、下記の各システムの実行ファイル(拡張子.exe)のショートカットをデスクトップ等に作成し、そのショートカットをダブルクリックして各システムを起動してください。

<実行ファイル格納ディレクトリー一覧>

No.	システム名	型式	実行ファイル格納ディレクトリ(*1)	実行ファイル名
1	S10Toolsシステム	S-7890-01	C:\¥Hitachi¥S10	S10Ladder.exe S10Tool.exe
2	ラダー図システム	S-7890-02	C:\¥Hitachi¥S10¥2ALDC	S10Ladder.exe
3	HI-FLOWシステム	S-7890-03	C:\¥Hitachi¥S10¥HF	S10Tool.exe
4	CPMSロードシステム	S-7890-04	C:\¥Hitachi¥S10¥CPMS	Cpms.exe
5	CPMSEロードシステム	S-7890-05	C:\¥Hitachi¥S10¥CPMSE	Cpmse.exe
6	CPMSデバッグシステム	S-7890-06	C:\¥Hitachi¥S10¥DEBUG	Debugger.exe
7	CPMSEデバッグシステム	S-7890-07	C:\¥Hitachi¥S10¥DEBUGE	DebuggerE.exe
8	GP-IBロードシステム	S-7890-08	C:\¥Hitachi¥S10¥GPIB	Gpib.exe
9	一括セーブ/ロードシステム	S-7890-09	C:\¥Hitachi¥S10¥BACKUP	SysAllSaveLoad.exe
10	NX/Tools-S10システム	S-7890-13	C:\¥Hitachi¥S10¥NX	NXTool.exe
11	4 ラダー図システム	S-7890-17	C:\¥Hitachi¥S10¥4ALDC	S10Ladder_4A.exe
12	4 Hラダー図システム	S-7890-18	C:\¥Hitachi¥S10¥4AHLDC	S10Ladder_4AH.exe
13	ラダー図コメントコンバータシステム	S-7890-19	C:\¥Hitachi¥S10¥CFCONV	Cfconv.exe
14	H7338サポートシステム	S-7890-20	C:\¥Hitachi¥S10¥H7338	H7338.exe
15	高速リモートI/Oシステム	S-7890-21	C:\¥Hitachi¥S10¥HISRIO	HiSpeedRIO.exe
16	CPU間リンクシステム	S-7890-22	C:\¥Hitachi¥S10¥CPULINK	CpuLink.exe
17	4チャンネルアナログパルスカウンタシステム	S-7890-23	C:\¥Hitachi¥S10¥ANALOG	AnalogPuls.exe
18	外部機器リンクシステム	S-7890-24	C:\¥Hitachi¥S10¥EXLINK	ExLink.exe
19	S10ET LINKシステム	S-7890-25	C:\¥Hitachi¥S10¥ETLINK	EtherNet.exe
20	J.NETシステム	S-7890-27	C:\¥Hitachi¥S10¥JNET	JNet.exe
21	OD.RING/SD.LINKシステム	S-7890-28	C:\¥Hitachi¥S10¥ODRING-SDLINK	ODRing.exe
22	ET.NETシステム	S-7890-29	C:\¥Hitachi¥S10¥ETNET	Et_Net.exe
23	FL.NETシステム	S-7890-30	C:\¥Hitachi¥S10¥FLNET	FLnet.exe
24	D.NETシステム	S-7890-31	C:\¥Hitachi¥S10¥DNET	DNet.exe
25	BSCシステム	S-7890-32	C:\¥Hitachi¥S10¥BSC	BSC.exe
26	HDLCシステム	S-7890-33	C:\¥Hitachi¥S10¥HDLC	HDLC.exe
27	モニタ専用ラダー図システム	S-7890-34	C:\¥Hitachi¥S10¥2ALDCM	S10LadderM.exe
28	モニタ専用HI-FLOWシステム	S-7890-35	C:\¥Hitachi¥S10¥HFM	S10ToolM.exe
29	IR.LINKシステム	S-7890-36	C:\¥Hitachi¥S10¥IRLINK	IrLink.exe

(*1) インストール先ドライブ名が「C」の場合のディレクトリ名です。

(*) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 14, 34を除きます。

- (2) [一括セーブ/ロード]画面が表示されます。この状態で一括セーブ/ロードは立ち上がっていません。この後は、目的のコマンドのボタンをクリックしてください。

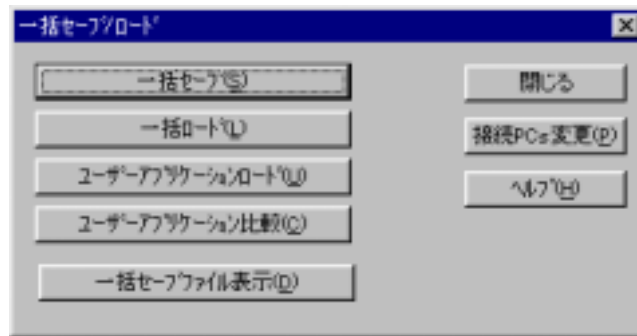


図2 - 1 [一括セーブ/ロード]画面

2.4 システム終了

[一括セーブ/ロード]画面(図2 - 1参照)において、**×** または **閉じる** ボタンをクリックします。

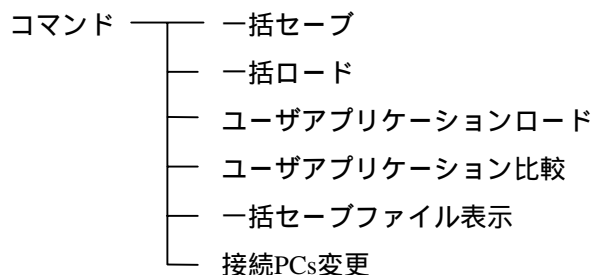
3 コマンド

3 コマンド

3.1 コマンド体系

一括セーブ/ロードのコマンド体系を以下に示します。

コマンドの概要を3.2節以降に示します。コマンドの詳細については、ヘルプを参照してください。



3.2 一括セーブ

機能：PCs内のプログラムを一括セーブします。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [一括セーブ/ロード]画面(図2-1)の **一括セーブ** ボタンをクリックします。
[一括セーブ]画面が表示されます。

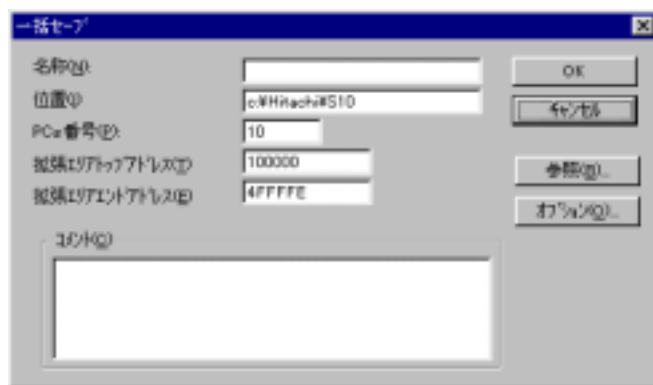


図3-1 [一括セーブ]画面

- (2) 一括セーブするフォルダの「名称」、「位置」、「PCs番号」、「拡張エリアトップアドレス」および「拡張エリアエンドアドレス」を入力します。必要に応じて「コメント」を入力します。拡張エリアについては、デフォルト表示で、実装されている拡張メモリのトップアドレスとエンドアドレスが表示されますので、そのまま変更せず一括セーブを行うことをお勧めします。拡張エリアのトップアドレスとエンドアドレスに共に0を指定した場合、拡張メモリのセーブは行われません。

下記に [一括セーブ] 画面の入力項目およびボタン操作の説明をします。

名称：一括セーブファイルが格納されるフォルダ名称を指定します。この直下に一括セーブファイルが格納されます。一括セーブファイルの種類については「付録A 一括セーブファイル一覧」を参照してください。

名称のデフォルト表示は、空欄となります。

位置：「名称」までのディレクトリパスを指定します。位置の指定は、直接テキストボックスにドライブ名からのディレクトリパスを入力するか、 ボタンをクリックしてディレクトリパスを選択します。

位置のデフォルトは、一括セーブ/ロードシステムのインストールディレクトリとなります。

PCs番号：一括セーブ時のPCs番号を指定します。通常は、デフォルトで表示されるPCs番号を使用してください。PCs番号を変更して一括セーブした場合、その情報を再度同じPCsへ一括ロードできませんので注意してください。

ただし、PCs番号を9999として一括セーブした場合は、任意のPCsへの一括ロードが可能となります。

PCs番号のデフォルト表示は、一括セーブ/ロードシステムが接続されているPCsのPCs番号となります。

拡張エリアトップアドレス：一括セーブを行う拡張メモリアreaの先頭アドレスを指定します（16進数入力）。デフォルト表示は、実装（内蔵を含む）されている拡張メモリアreaの先頭アドレスとなります。

拡張エリアエンドアドレス：一括セーブを行う拡張メモリアreaの終了アドレスを指定します（16進数入力）。デフォルト表示は、実装（内蔵を含む）されている拡張メモリアreaの終了アドレスとなります。拡張エリアトップアドレスとエンドアドレスを共に0にした場合には、拡張メモリアreaの一括セーブは行われません。

コメント：コメントの入力は任意です。半角、全角および混合での入力が可能です。入力の最大語数は、半角で256文字、全角ならば128文字となります。

ボタン：一括セーブを行う場合に、クリックします。 ボタンをクリックすると、始めに各入力値のチェックを行います。チェック項目を以下に示します。

名称：空欄の場合、エラーとなり、エラーメッセージダイアログが表示されます。

位置：空欄および無効のドライブ名が指定された場合、エラーとなり、エラーメッセージダイアログが表示されます。

PCs番号：0～9999以外の数字や数字以外の文字が指定された場合、エラーとなり、エラーメッセージダイアログが表示されます。

3 コマンド

拡張エリアトップアドレス：100000（16進数）より小さい数字が指定された場合、エラーとなりフォーカスが拡張エリアトップアドレス入力エリアに移動します。エラーメッセージは出力されません。

拡張エリアエンドアドレス：拡張エリアトップアドレスよりも小さい値を指定した場合、または拡張エリア実装最大アドレス（4FFFFFF）より大きな値を指定した場合にエラーとなり、フォーカスが拡張エリアエンドアドレス入力エリアに移動します。エラーメッセージは出力されません。

入力値のチェックが正常に終了すると、一括セーブ処理を開始します。

キャンセル ボタン：一括セーブを行わず、一括セーブ/ロード画面に戻る場合にクリックします。

オプション ボタン：一括セーブを行う領域を変更する場合にクリックします。

詳細は、「セーブサイズエリアの切り替え」を参照してください。

参照 ボタン：「位置」を変更する場合にクリックします。 **参照** ボタンをクリックすると、[参照]画面（図3 - 2）が表示されます。

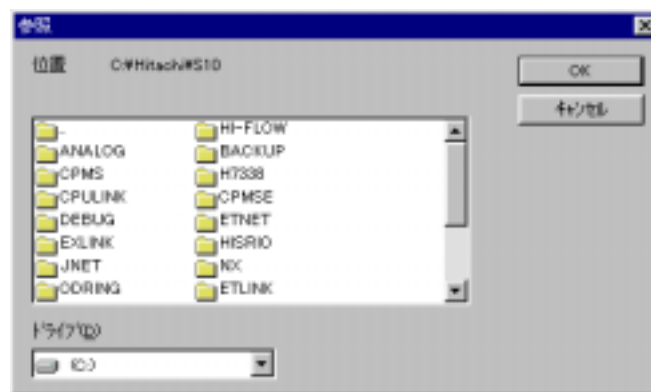


図3 - 2 [参照]画面

フォルダを選択して、**OK** ボタンをクリックすると、[参照]画面が消去され、[一括セーブ]画面に戻ります。[一括セーブ]画面の「位置」入力テキストボックスに、[参照]画面で選択したフォルダが、ドライブ名からフルパスで入力されます。

キャンセル ボタンをクリックすると、[参照]画面が消去され、[一括セーブ]画面に戻ります。[参照]画面で選択したフォルダは、[一括セーブ]画面の「位置」入力テキストボックスに反映されません。

(3) 入力終了したら、 ボタンをクリックします。 ボタンをクリックすると、一括セーブを開始します。

一括セーブをしない場合は、 ボタンをクリックします。 ボタンをクリックすると、[一括セーブ]画面が消去され、[一括セーブ/ロード]画面に戻ります。

(4) 一括セーブが開始されると、「全タスクをAbortしますか？」メッセージダイアログボックスが表示されます(図3-3)。



図3-3 [一括セーブ/ロード]ダイアログボックス(全タスクアポート確認)

ボタンをクリックすると、全タスクをアポート(停止)します。ただし、デバッグシステム(*)が一括セーブ先のPCsにインストールされていない場合、エラーメッセージダイアログ(図3-4)が表示され、タスクのアポートは行われません。デバッグシステムをインストールするか、 ボタンをクリックしてください。

ボタンをクリックすると、タスクのアポートは行いません。

ボタンをクリックすると、一括セーブを行わずに、[一括セーブ]画面に戻ります。



図3-4 [一括セーブ/ロード]ダイアログボックス(デバッグシステム未インストール時)

(*) 一括セーブを行うPCsがS10/2 の場合は、CPMSデバッグシステム(P.P.型式:S7890-06)を指します。

一括セーブを行うPCsがS10/2 E, S10/2 H, S10/2 HfおよびS10miniの場合は、CPMSEデバッグシステム(P.P.型式:S7890-07)を指します。

<全タスクのAbort(停止)について>

設備を止める場合は、全タスクをAbortしてください。

3 コマンド

- (5) 続いて、「OSの動作を止めてセーブしますか？」メッセージダイアログボックスが表示されます（図3 - 5）。



図3 - 5 [一括セーブ/ロード] ダイアログボックス (OS動作停止確認)

はい ボタンをクリックすると、OSの動作を停止して一括セーブを行います。

いいえ ボタンをクリックすると、OSの動作を停止せずに一括セーブを行います。

< OSの動作停止について >

設備を止める場合は、OSの動作を停止してください。OSの動作を停止しないと、ワークレジスタがダイナミックに変化している状態で、一括セーブされます。この場合、ワークレジスタの値が不定となっている可能性があり、一括ロード時にエラーが発生する場合があります。

- (6) 一括セーブ中を表わす画面（図3 - 6）が表示されます。



図3 - 6 [一括セーブ] 画面 (一括セーブ中)

OK ボタンをクリック（一括セーブ完了）すると、[一括セーブ]画面に戻ります。 OK ボタンは一括セーブが完了するまでクリックすることはできません（操作不可）。

キャンセル ボタンをクリックすると、一括セーブを中止して、[一括セーブ]画面に戻ります。ただし、 キャンセル ボタンがクリックされるまでにセーブされたセーブ情報ファイルは削除されません。このファイルを使用しての一括ロードは行わないでください。誤動作の原因になります。

<セーブエリアサイズの切り替え>

[一括セーブ]画面の **オプション** ボタンをクリックすると、[オプション]画面が表示されます(図3-7参照)。[オプション]画面の **閉じる** ボタンをクリックすると、[オプション]画面が消去され、[一括セーブ]画面に戻ります。[オプション]画面で、切り替えた条件(「プログラム及びパラメータ」または「RAM全体」)は、一括セーブ/ロードシステムが終了(閉じる)されるまで保持されます。



図3-7 [オプション]画面(セーブエリアサイズ切り替え)

セーブエリアサイズの切り替えは、以下の2つから選択します。

- ・プログラム及びパラメータ(デフォルト選択)
- ・RAM全体

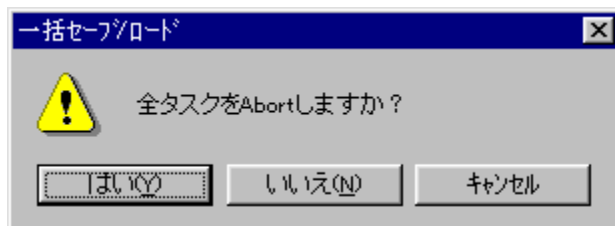
「プログラム及びパラメータ」を選択すると、以前の一括セーブロードシステム(バージョンが07-00以前)でセーブしたエリアサイズと同じになります。また、RAM全体を選択すると、実装された各モジュールのRAM全体がセーブされます。

<制限事項>

モジュール単位でのセーブエリアサイズの変更はできません。

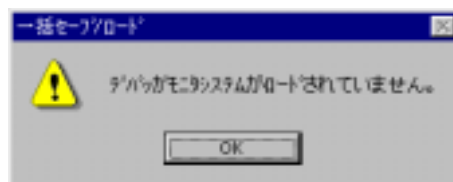
注 意

一括セーブ時、下記のように全タスクをAbortするかを確認するメッセージが表示されます（GP-IB接続の場合、GP-IBシステムがローディングされていないときには表示されません）。



全タスクをAbortするためには、CPMSデバッガ（2 の場合）またはCPMSEデバッガ（2 E/H/HfおよびS10miniシリーズの場合）のシステムプログラムをローディングしておいてください。デバッガのシステムプログラムがローディングされていない場合は、必ず **いいえ** をクリックしてください。

また、デバッガのシステムプログラムがローディングしてあるにもかかわらず下記メッセージが表示された場合は、一旦、一括セーブを中止し、デバッガシステムにてシステムプログラムをローディングした後に、再度、一括セーブをしてください。



3.3 一括ロード

機能：一括セーブしたプログラムをPCsへ一括ロードします。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [一括セーブ/ロード]画面(図2-1)の **一括ロード** ボタンをクリックします。
- (2) [一括ロード]画面(ファイル選択)が表示されます(図3-8)。

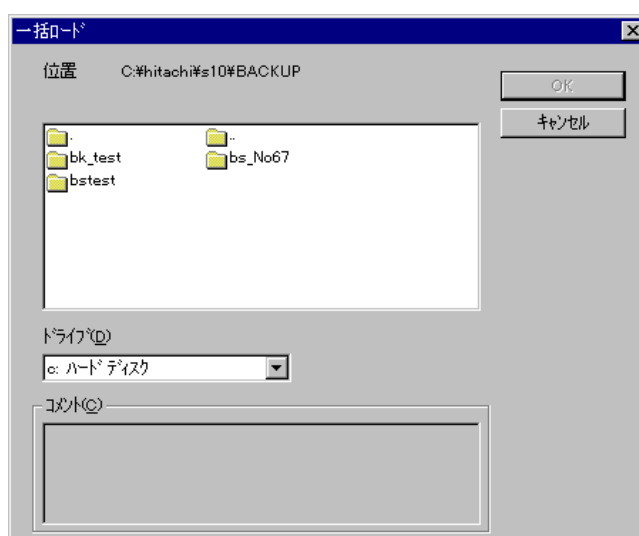


図3-8 [一括ロード]画面(ファイル選択)

一括ロードするフォルダを選択し、**OK** ボタンをクリックすると、一括ロードが開始されます(*)。ただし、選択したフォルダが一括セーブファイルのフォルダでない場合、**OK** ボタンをクリックすることはできません。また、一括セーブファイルがフロッピーディスク等に保存されている場合は、「ドライブ」でフロッピーディスクを選択してください。

一括ロードしない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックしてください。一括ロードを行わずに、[一括ロード]画面が消去され、[一括セーブ/ロード]画面に戻ります。

[一括ロード]画面の「コメント」欄は、表示のみで変更はできません。「コメント」は、一括セーブファイルが選択された時点で表示されます。ただし、一括セーブした時に、コメントの入力があった場合に限られます。

- (*) 一括セーブファイルのPCs番号と、一括ロード先のPCs番号が不一致の場合、PCs番号不一致エラーメッセージ画面が表示されます(図3-9)。任意のラジオボタンを選択し、**OK** ボタンをクリックしてください。ただし、一括セーブファイルヘッダのPCs番号が9999の場合、PCs番号のチェックは行われません。一括セーブファイル本体のPCs番号で、一括ロード先PCsのPCs番号を書き換えますので注意してください。

3 コマンド



図3 - 9 [PCs No. Check] 画面 (PCs番号不一致エラーメッセージ)

pseファイルヘッダのPCsNo.で書き換えて一括ロード : 一括セーブファイルヘッダのPCs番号で一括ロード先のPCs番号を上書きして、一括ロードを行います。一括セーブファイルヘッダのPCs番号は、一括セーブ時に設定できます。詳しくは、「3.2 一括セーブ」を参照してください。

pseファイル本体のPCsNo.で書き換えて一括ロード : 一括セーブファイル本体のPCs番号で一括ロード先のPCs番号を上書きして、一括ロードを行います。一括セーブファイル本体のPCs番号とは、一括セーブ先のPCsに設定してあるPCs番号です。

PCsNo.を書き換えしないで一括ロード : 一括ロード先のPCs番号を変更せずに、一括ロードを行います。

一括ロードしない : 一括ロードを行いません。
デフォルトの選択は、「一括ロードしない」となっています。

- (3) 一括ロードが開始されると、「PCsをリセットまたは停復電してください」メッセージダイアログ (図3 - 10) が表示されます。メッセージに従い、PCsをリセットまたは停復電してください。



図3 - 10 [PCsリセット] ダイアログボックス

PCsのリセットまたは停復電を行うと、「PCsをリセットまたは停復電してください」メッセージダイアログが消去されます。

- (4) PCsのリセットまたは停復電を行うと、一括ロード開始前にメモリのクリアを行うかどうかの画面(図3 - 11)が表示されます。

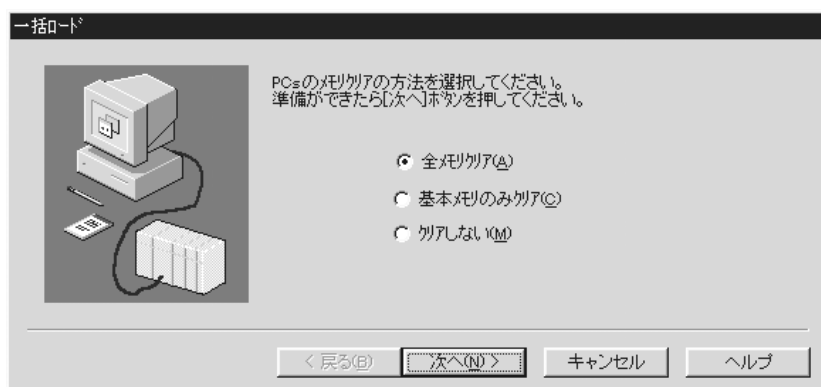


図3 - 11 [一括ロード]画面(メモリクリア確認)

- 全メモリクリア** : 全メモリクリアを選択すると、一括ロードの前に基本メモリおよび実装された拡張メモリをクリアします。
- 基本メモリのみクリア** : 基本メモリのみクリアを選択すると、基本メモリ(シーケンスメモリ、PI/Oメモリ、OS-RAM)をクリアします。
- クリアしない** : クリアしないを選択すると、一括ロードの前にメモリのクリアは行われません。

「全メモリクリア」または「基本メモリのみクリア」を選択して、**次へ** ボタンをクリックすると、メモリのクリアが開始されます。メモリのクリア中は、図3 - 12に示す画面が表示されます。



図3 - 12 [一括ロード]画面(メモリクリア中)

3 コマンド

[一括ロード]画面(メモリクリア確認)の **キャンセル** ボタンをクリックすると、[一括ロード]画面(メモリクリア確認)は消去され、[一括ロード]画面(ファイル選択)に戻ります。

[一括ロード]画面(メモリクリア確認)の **ヘルプ** ボタンをクリックすると、ヘルプ画面が表示されます。

(5) メモリクリアが完了すると、[一括ロード]画面(メモリクリア中)の **完了** ボタンがクリックできるようになりますので、**完了** ボタンをクリックしてください。メモリクリア中に **キャンセル** ボタンをクリックすると、メモリのクリアが中途半端で終了(途中までメモリクリアされた状態)し、[一括ロード]画面(メモリクリア中)が消去され、[一括ロード]画面(ファイル選択)に戻ります。

(6) メモリクリア完了にて、(3)で表示されたメッセージ(図3-10)が表示されますので、メッセージに従い、PCsのリセットまたは停復電を行ってください。図3-10に示す画面が消去されると、「キープコイルとカウンタ計測値の情報も復元しますか?」メッセージダイアログボックス(図3-13)が表示されます。この画面は、(4)で「クリアしない」を選択した場合にも表示されます。



図3-13 [一括セーブ/ロード]画面(キープコイルとカウンタ計測値の情報復元確認)

はい ボタンをクリックすると、一括ロードの時にキープコイルとカウンタ計測値の情報を復元します。

いいえ ボタンをクリックすると、キープコイルとカウンタ計測値の情報は復元されません。

キープコイル: キープリレー(停電保持ラッチ型) KW000 ~ KWFFF

カウンタ計測値: アップダウンカウンタ(計数値) CC000 ~ CC0FF

(7) [一括セーブ/ロード]画面(キープコイルとカウンタ計測値の情報復元確認)で、**はい** または **いいえ** ボタンがクリックされると、キープコイルとカウンタ計測値の情報復元確認画面が消去され、[一括ロード]画面(一括ロード中)(図3-14)が表示されます。



図3 - 14 [一括ロード]画面(一括ロード中)

一括ロード中に、**キャンセル** ボタンをクリックすると、一括ロード画面(一括ロード中)が消去され、[一括ロード]画面(ファイル選択)(図3 - 8)に戻ります。この場合、一括ロードが途中まで行われたこととなりますが、この状態でのシステムの運用は誤動作の原因となりますので、再度、一括ロードをやり直してください。一括ロードが終了すると、「PCsをリセットまたは停復電してください」メッセージダイアログ(図3 - 10)が表示されます。ただし、一括ロード先がS10miniを対象モジュールがRS-232Cの場合、「PCsをリセットしてください」のメッセージに変わりますのでメッセージに従って、リセットしてください。停復電を行った場合、RS-232CのLGBテーブル情報は反映されません。

PCsのリセットまたは停復電(上記RS-232Cの場合は停復電禁止)を行うと、「PCsをリセットまたは停復電してください」メッセージダイアログボックスが消去され、**完了** ボタンをクリックできるようになりますので、**完了** ボタンをクリックしてください。

完了 ボタンをクリックされると、[一括ロード]画面(一括ロード中)が消去され、[一括ロード]画面(ファイル選択)に戻ります。

<注意事項>

(1) 一括ロード中に、図3 - 15に示す画面が表示された場合、拡張メモリ情報はローディングされません。

下記の条件で、[拡張メモリアドレス不一致]画面が表示されます。

一括セーブ時の拡張メモリ開始アドレスが、一括ロード先のPCsに実装(内蔵も含む)されている拡張メモリ開始アドレスより小さい場合。

一括セーブ時の拡張メモリ終了アドレスが、一括ロード先のPCsに実装(内蔵も含む)されている拡張メモリ終了アドレスより大きい場合。

できる限り、拡張メモリのアドレス(開始および終了)は、一括セーブ先と一括ロード先で一致させてください。

3 コマンド



図 3 - 15 [拡張メモリアドレス不一致] 画面

(2) 下記メッセージダイアログボックスが表示された場合、一括ロード先に実装してあるオプションモジュールを確認してください。一括ロード先が、S10/2 , S10/2 E, S10/2 H, S10/2 Hfの場合、表示する可能性があります。

一括ロード先に、Fリンクモジュールが実装されている場合、 ボタンをクリックしてください。Fリンクモジュール情報をローディングします。 ボタンをクリックすると、Fリンクモジュール情報はローディングされません。



図 3 - 16 [一括セーブ/ロード] 画面 (Fリンク情報ローディング許可確認)

一括ロード先に、HDLCモジュールが実装されている場合、 ボタンをクリックしてください。HDLCモジュール情報をローディングします。 ボタンをクリックすると、HDLCモジュール情報はローディングされません。



図 3 - 17 [一括セーブ/ロード] 画面 (HDLC情報ローディング許可確認)

一括ロード先に、外部機器リンクモジュールが実装され、それをH-7338で使用する場合、 ボタンをクリックしてください。H-7338情報をローディングします。 ボタンをクリックすると、H-7338情報はローディングされません。



図3 - 18 [一括セーブ/ロード]画面 (H-7338情報ローディング許可確認)

一括ロード先に、BSCモジュールが実装されている場合、 ボタンをクリックしてください。BSCモジュール情報をローディングします。 ボタンをクリックすると、BSCモジュール情報はローディングされません。



図3 - 19 [一括セーブ/ロード]画面 (BSCモジュール情報ローディング許可確認)

一括ロード先に、外部機器リンクモジュールが実装されている場合、 ボタンをクリックしてください。外部機器リンクモジュール情報をローディングします。 ボタンをクリックすると、外部機器リンクモジュール情報はローディングされません。

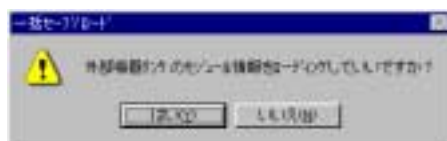


図3 - 20 [一括セーブ/ロード]画面 (外部機器リンクモジュール情報ローディング許可確認)

- (3) CPUリンク情報のS10miniへローディングは、PCsエディション情報のみがローディング対象となります。
- (4) RS-232C情報のS10miniへローディングは、LGBテーブル情報のみがローディング対象となります。

3 コマンド

3.4 ユーザアプリケーションロード

機能：指定したユーザアプリケーションプログラムをPCsへロードします。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [一括セーブ/ロード]画面の **ユーザアプリケーションロード** ボタンをクリックします。
- (2) [ユーザアプリケーションロード]画面が表示されます。

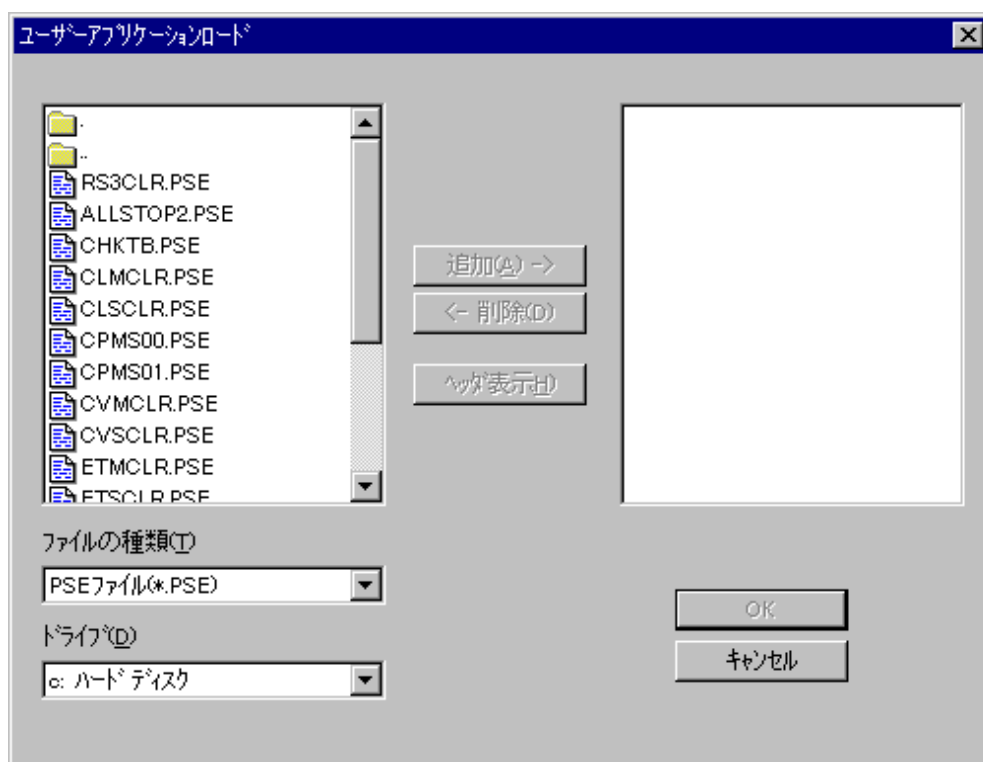


図3 - 21 [ユーザアプリケーションロード]画面

- (3) ロードするファイルを選択し、 **追加** ボタンをクリックします。ロードするファイルは複数設定可能です。設定したファイルを削除したい場合は、 **削除** ボタンをクリックします。設定が終了したら **OK** ボタンをクリックします。 **OK** ボタンをクリックすると、ユーザアプリケーションロードを開始します。

3. 5 ユーザアプリケーション比較

機能：指定したユーザアプリケーションプログラムとPCsメモリ内容を比較します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [一括セーブ/ロード]画面の **ユーザアプリケーション比較** ボタンをクリックします。
- (2) [ユーザアプリケーション比較]画面が表示されます。

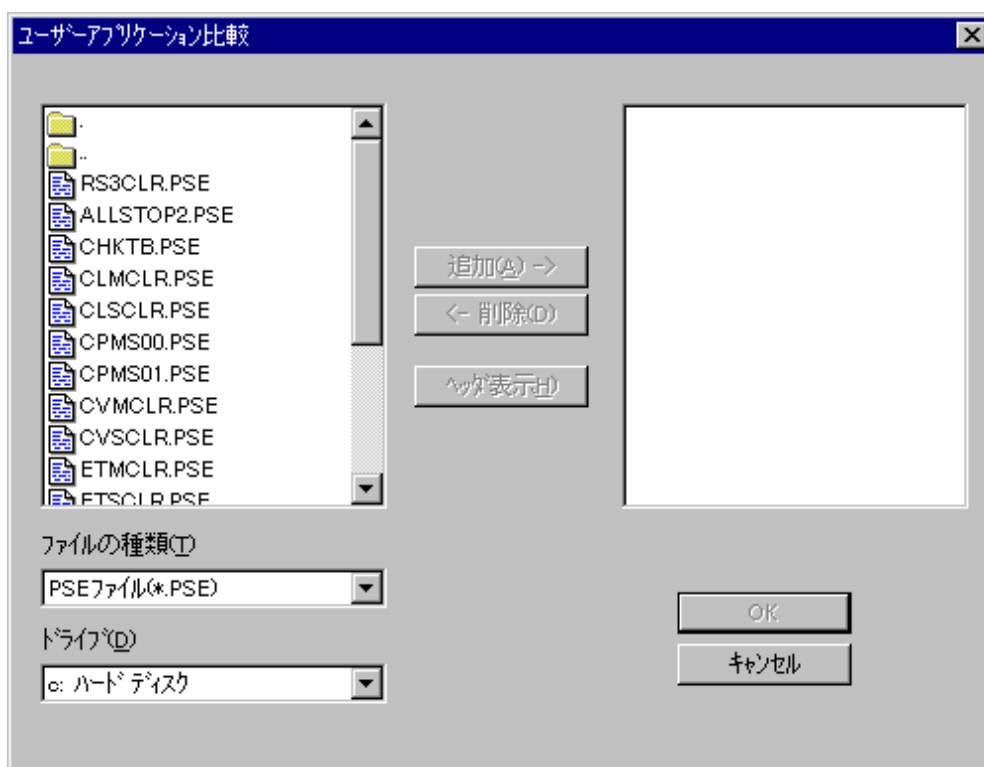


図3 - 22 [ユーザアプリケーション比較]画面

- (3) 比較するファイルを選択し、 **追加** ボタンをクリックします。比較するファイルは複数設定可能です。設定したファイルを削除したい場合は、 **削除** ボタンをクリックします。設定が終了したら **OK** ボタンをクリックします。 **OK** ボタンをクリックすると、設定したファイルとPCsメモリ内容の比較を開始します。

3. 6 一括セーブファイル表示

機能：一括セーブ/ロードシステムで、一括セーブしたファイルの中身を表示します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [一括セーブ/ロード]画面の **一括セーブファイル表示** ボタンをクリックすると、[一括セーブファイル選択]画面が表示されます。



図 3 - 23 [一括セーブファイル選択]画面

表示したい一括セーブファイルのフォルダを選択して、**OK** ボタンをクリックすると、[一括セーブファイル表示]画面が表示されます。一括セーブファイル以外のフォルダを選択した場合、**OK** ボタンをクリックできません。選択したフォルダが一括セーブフォルダの場合、一括セーブ時にコメントの入力があれば、コメントが表示されます。コメントの修正はできません。



図 3 - 24 [一括セーブファイル表示] 画面

[一括セーブファイル表示]画面は、アドレスまたはPI/O指定によりデータ読み出しを行います。ただし、一括セーブしたファイル内に指定されたアドレスまたはPI/Oに対するデータが存在しない場合は、エラーとなります。

下記に表示/入力/操作項目を示します。

<表示項目>

- 「PI/O」 : アドレスをPI/O変換した場合のPI/O値。変換失敗時は、「-----」を表示します。
- 「アドレス」 : 表示データのアドレス(16進数固定)。データなしの場合は、「000000」となります。
- 「ファイル内容」 : 先頭アドレスから読み込んだ128バイトのデータ内容を表示します。表示形式(10進数/16進数またはLong/Word型)は切り替え可能です。詳しくは<操作項目>を参照してください。なお、このファイル内容の書き換えはできません。
- 「アスキーコード」 : 表示データの内容をアスキーコードに変換した文字列として表示します。変換失敗時は、「.」を表示します。

<入力項目>

- 「先頭アドレス」「PI/O指定」 : 表示する一括セーブファイルの先頭をアドレスまたはPI/O形式で指定します。先頭アドレスにするかPI/O形式にするかは、「先頭指定方法」グループボックスで選択します。

3 コマンド

< 操作項目 >

「先頭指定方法」 : 先頭アドレスの指定方法を選択します。デフォルトの選択は、「アドレス指定」となります。「アドレス指定」のラジオボタンにチェックマークを付けると入力先頭アドレス指定となり、「PI/O指定」ラジオボタンにチェックマークを付けるとPI/O指定となります。

「10進/16進」 : 表示内容の表示形式(10進数/16進数)を選択します。デフォルトの選択は、「16進」となります。「10進」ラジオボタンにチェックマークを付けると、10進数の型式で表示されます。「16進」ラジオボタンにチェックマークを付けると、16進数の型式で表示されます。このラジオボタンを選択した場合、符号グループボックスの選択は不可能となります。

「WORD/LONG」 : 表示内容の表示形式を選択します。デフォルトの選択は、「WORD」となります。「WORD」ラジオボタンにチェックマークを付けると、WORD型式で表示されます。「LONG」ラジオボタンにチェックマークを付けると、LONG型式で表示されます。

「符号」 : 表示内容の表示形式を選択します。デフォルトの選択は、「あり」となります。「あり」にチェックマークを付けると、符号あり(Signed)型式で表示されます。「なし」にチェックマークを付けると、符号なし(UnSigned)型式で表示されます。

閉じる ボタン : [一括セーブファイル表示]画面を閉じます。

読み込み ボタン : 先頭アドレスから128バイトの一括セーブファイルの内容を読み込み表示します。ただし、先頭アドレスに存在しないアドレスを指定した場合、警告メッセージを表示します。

スクロールボタン : 現在表示中のアドレスから1行上方向にスクロールします。
現在表示中のアドレスから-8バイトを引いたアドレスから128バイトのデータを表示します。

スクロールボタン : 1ページ上方向にスクロールします。
現在表示中のアドレスから-128バイトを引いたアドレスから128バイトのデータを表示します。

スクロールボタン : 1行下方向にスクロールします。
現在表示中のアドレスから8バイトを足したアドレスから128バイトのデータを表示します。

スクロールボタン : 1ページ下方向にスクロールします。
現在表示中のアドレスから128バイトを足したアドレスから128バイトのデータを表示します。

<一括セーブファイル表示の注意事項>

一括セーブファイル表示で選択するファイルは、一括セーブを行ったファイルのみにしてください。
それ以外の方法で作成されたファイルに関する動作保証はできません。

3 コマンド

3.7 接続PCs変更

機能：PCsとパソコンの通信種類を設定します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [一括セーブ/ロード]画面の **接続PCs変更** ボタンをクリックします。
- (2) [通信種類]画面が表示されます。



図 3 - 25 [通信種類]画面 (接続PCs変更)

- (3) 通信種類がRS-232Cの場合、「RS-232C」のラジオボタンをクリックし、「通信ポート」を選択します。



図 3 - 26 [通信種類]画面 (RS-232Cポート選択)

- (4) 通信種類がイーサネットの場合、「イーサネット」のラジオボタンをクリックし、接続先の「IPアドレス」を入力します。



図 3 - 27 [通信種類]画面 (イーサネット接続)

- (5) 通信種類がGP-IBの場合、「GPIB」のラジオボタンをクリックします。



図 3 - 28 [通信種類]画面 (GP-IB接続)

注 意

S10miniシリーズとパソコンを接続する場合は、S10miniシリーズはGP-IBをサポートしていませんので、RS-232Cかイーサネットを選択してください。

- (6) 設定が終了したら、**OK** ボタンをクリックします。設定しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

付 録

付録A 一括セーブファイル一覧

一括セーブを行った場合に作成されるファイル一覧を下表に示します。

未実装のモジュールや、一括セーブ時の条件によっては、作成されないファイルもあります。また、一括セーブ/ロードシステムのバージョン・レビジョンが08-00より前のシステムによる一括セーブの場合、ET.NET以降のファイルは作成されません。

表A - 1 一括セーブファイル一覧 (1/2)

一括セーブ対象モジュール	一括セーブファイル名称	ファイル容量 (KB)	備考
Fリンク	Backup1.pse	159 ~ 317 (321 ~ 641)	
ET.LINK	Backup2.pse	101 ~ 201 (513 ~ 1025)	
CRT	Backup3.pse	129 ~ 513 (257 ~ 1025)	
CPUリンク	Backup4.pse	17 ~ 33 (25 ~ 49)	
外部機器リンク	Backup5.pse	33 ~ 65 (33 ~ 65)	
	Backup6.pse	33 ~ 65 (33 ~ 65)	
CPU(OS)	Backup7.pse	198 (641)	S10/2 の場合。
		262 (641)	S10/2 E, S10/2 H, S10/2 Hf, S10miniの場合。
拡張メモリ	Backup8.pse	1 ~ 1025 (1 ~ 1025)	一括セーブできる拡張メモリの範囲は、 /100000 ~ /4FFFFFFEまでです。1ファイルにつき、最大 1MBのデータをセーブします。
	Backup9.pse		
	Backup10.pse		
	Backup11.pse		

表A - 1 一括セーブファイル一覧 (2/2)

一括セーブ 対象モジュール	一括セーブ ファイル名称	ファイル容量 (KB)	備考
ET.NET	Backup12.pse	- (257 ~ 513)	
J.NET	Backup13.pse	33 ~ 65 (257 ~ 513)	
OD.RING	Backup14.pse	1 (257 ~ 513)	
FL.NET	Backup15.pse	8 ~ 16 (257 ~ 513)	
D.NET	Backup16.pse	24 ~ 47 (81 ~ 161)	
	Backup17.pse	24 ~ 47 (81 ~ 161)	
HDLC	Backup18.pse	33 ~ 129 (65 ~ 257)	

1KB= 1024バイト。小数点以下、切り上げて表記してあります。

ファイル容量は、実装枚数により変化します。

ファイル容量の()内は、RAM全体指定にて一括セーブを行った場合の容量です。

付録B 一括セーブエリア

一括セーブされる各モジュールのメモリアドレスを表B - 1、表B - 2、表B - 3に示します。一括セーブ要求時にセーブオプションを「プログラム及びパラメータ」とした場合は、表B - 1、表B - 2に示すアドレス範囲でセーブされます。「RAM全体」とした場合には、表B - 3に示すアドレス範囲でセーブされます。

「プログラム及びパラメータ」、「RAM全体」の切り替えについては、「3.2 一括セーブ」の<セーブエリアサイズの切り替え>を参照してください。

表B - 1 「プログラム及びパラメータ」指定時に一括セーブされるOSエリア

S10/2	S10/2 E, 2 H, 2 Hf, S10mini
/60000 ~ /7FFFE	/60000 ~ /7FFFE
/E1000 ~ /E11FE	/E1000 ~ /E11FE
/E2000 ~ /E3FFE	/E2000 ~ /E3FFE
/F0600 ~ /F07FE	/F0600 ~ /F07FE
/F1004 ~ /FFFFE	/81000 ~ /90FFE
-	/91004 ~ /9FFFE

「RAM全体」を指定した場合、上記機種に依らずアドレスの/60000 ~ /FFFFEまでのエリアがセーブされます。

表 B - 2 「プログラム及びパラメータ」指定時に一括セーブされるオプションモジュールエリア

モジュール名称	モジュール0	モジュール1	モジュール2	モジュール3
フリック	/B00000 ~ /B177FE	/B40000 ~ /B577FE	-	-
	/F70000 ~ /F7FFFE	/F80000 ~ /F8FFFE	-	-
ET.LINK	/C00000 ~ /C18FFE	/C80000 ~ /C98FFE	-	-
CRT	/D00000 ~ /D1FFFE	/D40000 ~ /D5FFFE	/D80000 ~ /D9FFFE	/DC0000 ~ /DDFFFE
CPUリッパ	/F08000 ~ /F0BFFE	/F18000 ~ /F1BFFE	-	-
外部機器リッパ	/F48000 ~ /F4FFFE	/F58000 ~ /F5FFFE	/F68000 ~ /F6FFFE	/F78000 ~ /F7FFFE
ET.NET	-	-	-	-
J.NET	/A78008 ~ /A7FFFE	/AF8008 ~ /AFFFE	-	-
OD.RING	/978002 ~ /978012	/9F8002 ~ /9F8012	-	-
FL.NET	(*)	(*)	-	-
D.NET	/E30000 ~ /E35AFE	/E70000 ~ /E75AFE	/EB0000 ~ /EB5AFE	/EF0000 ~ /EF5AFE
	/E36000 ~ /E3608E	/E76000 ~ /E7608E	/EB6000 ~ /EB608E	/EF6000 ~ /EF608E
HDLC	/B00000 ~ /B07FFE	/B40000 ~ /B47FFE	/B80000 ~ /B87FFE	/BC0000 ~ /BC7FFE

(*) FL.NETのアドレスは、可変となります。

表 B - 3 「RAM全体」指定時に一括セーブされるオプションモジュールエリア

モジュール名称	モジュール0	モジュール1	モジュール2	モジュール3
フリック	/B00000 ~ /B3FFFE	/B40000 ~ /B7FFFE	-	-
	/F70000 ~ /F7FFFE	/F80000 ~ /F8FFFE	-	-
ET.LINK	/C00000 ~ /C7FFFE	/C80000 ~ /CFFFE	-	-
CRT	/D00000 ~ /D3FFFE	/D40000 ~ /D7FFFE	/D80000 ~ /DBFFFE	/DC0000 ~ /DFFFE
CPUリッパ	/F04000 ~ /F05FFE	/F14000 ~ /F15FFE	-	-
	/F08000 ~ /F0BFFE	/F18000 ~ /F1BFFE	-	-
外部機器リッパ	/F48000 ~ /F4FFFE	/F58000 ~ /F5FFFE	/F68000 ~ /F6FFFE	/F78000 ~ /F7FFFE
ET.NET	/840000 ~ /87FFFE	/8C0000 ~ /8FFFE	-	-
J.NET	/A40000 ~ /A7FFFE	/AC0000 ~ /AFFFE	-	-
OD.RING	/940000 ~ /97FFFE	/9C0000 ~ /9FFFE	-	-
FL.NET	/D40000 ~ /D7FFFE	/DC0000 ~ /DFFFE	-	-
D.NET	/E00000 ~ /E03FFE	/E40000 ~ /E43FFE	/E80000 ~ /E83FFE	/EC0000 ~ /EC3FFE
	/E30000 ~ /E3FFFE	/E70000 ~ /E7FFFE	/EB0000 ~ /EBFFFE	/EF0000 ~ /EFFFFE
HDLC	/B00000 ~ /B0FFFE	/B40000 ~ /B4FFFE	/B80000 ~ /B8FFFE	/BC0000 ~ /BCFFFE

ご利用者各位

〒101-8010

東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地
株式会社日立製作所

お 願 い

各位にはますますご清栄のことと存じます。

さて、この資料をより良くするために、お気付きの点はどんなことでも結構ですので、
下欄にご記入の上、当社営業担当または当社所員に、お渡しくださいますようお願い申
しあげます。なお、製品開発、サービス、その他についてもご意見を併記して頂ければ
幸甚に存じます。

ご住所 〒	_____
貴会社名 (団体名)	_____
芳名	_____
製品名	_____
ご意見欄	_____ _____